

〔科目名〕 知の挑戦Ⅱ	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 演習科目				
〔担当者〕 野坂 真		〔授業の方法〕 演習				
〔演習テーマ〕 「地域の個性を生かした地域づくり: 東日本大震災の被災地で学び考えたことを、自分の研究に生かす」						
〔演習内容〕 <p>2年次に行ったフィールドワークなどで学んだこともふまえて各自の問題関心をさらに具体化し、洗練させた上で、研究テーマと自分の調査したい・関わりたい地域を決めて、卒業研究に向けた調査を各自行ってもらおう。そのために授業内では、先行研究の文献調査の結果や対象地域での調査の進捗状況を定期的に発表してもらい、ディスカッションを行う。なお、自分で研究テーマを設定し調査企画を立てることがもともと望ましいが、もしやむを得ない場合は、3年生の間は講師が行う研究プロジェクトに協力することでそれに代えても良い。自分で調査企画を立てて実施する場合、講師が行う研究プロジェクトに協力する場合、いずれを選んでも、本年度の研究成果について秋学期開始時点で中間報告を、そして秋学期終了時点で最終報告を行うことを必須とする。</p> <p>必要に応じ、「知の挑戦Ⅰ」で行う共同調査(大槌町、むつ市、中泊町での調査を予定)に参加したり、講師や3年生が調査対象としている地域へ2・3年生のゼミのメンバーで一緒に行って調査することも考えている。</p>						
〔科目の到達目標〕 2年次と比較して、以下の能力がさらに身につく。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会調査倫理を身につけた上で、具体的な地域でどのような課題が、なぜ起こっているか、客観的かつ多面的に調べ分析することができる。 (2) 具体的な地域で生じている課題への向き合い方や関わり方を、地域の個性と自分の能力をマッチングさせる形で考え、行動に移すことができる。 (3) 組織的にコミュニケーションを取り、行動する能力を身につける。 (4) 具体的な地域で行った調査や実践の結果をまとめ公表することで、情報リテラシーやプレゼンテーション能力を身につける。 						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3
〔前提条件〕 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、自分が考えたこと、他の学生や講師からの発言で重要と感じたことなどは、忘れないうちにノートなどにまとめておくこと。また、ディスカッションやグループワークの時間を設けるので、積極的に講師や他の受講者とコミュニケーションを取るよう心掛けること。 ・複数名で共同して行う調査・実践を伴うため、学生同士で、あるいは講師と、コミュニケーション(報連相)をよく取り合い協力しながら、参加すること。 ・授業中にエクセルでのデータ処理やワードでの原稿執筆などの具体的な事務作業が生じることもあるため、オフィスソフトがインストールされ、かつタイピング可能なノートPCやタブレット端末などの情報端末を毎回授業に持参すること。 ・授業時間外にも、調べものや報告の準備など、各自多くの作業時間を要する。共同および個別でのフィールドワーク等を行うため、長い調査期間や複数の調査回数を設定する必要がある。各自、研究や調査に費やす時間を十分確保できるようにスケジュール管理をすること。 ・学外の人々と関わり合う場面では、大学の看板を背負っているという責任感と、学ばせていただいているという 						

<p>謙虚さを常に持って行動すること。</p> <p>*「知の挑戦Ⅱ」の履修者は、必ず「フィールドリサーチⅡ」「フィールドリサーチⅢ」も履修すること。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加の主体性(授業に関わるグループワークにおける貢献度や積極性など) = 30% ・授業内報告のために作成した資料と報告の内容、ディスカッションでの発言の内容(着眼点の鋭さ、調べものの確さなど) = 30% ・最終成果物の内容(検討方法や検討結果の妥当性など) = 40% <p>※毎回の出席は前提とし、5回以上の欠席は単位不可となる(公欠は本学の基準に従う)。</p> <p>※授業に関わるグループワークへ参加しない場合、最終成果物を提出しない場合、卒業研究に向けた調査を実施しない場合、いずれも単位は取得できない。</p> <p>※単位 A、B、C、D、F いずれかになるかを判断する基準は大学による基準にもとづく。</p>	
<p>〔教科書等〕</p> <p>教科書と指定図書は特になし。以下、参考書を挙げる。</p> <p>文貞實・山口恵子・小山弘美・山本薫子編著『社会にひらく 社会調査入門』(ミネルヴァ書房)2023年 谷富夫・山本努編著『よくわかる質的社会調査法 プロセス編』(ミネルヴァ書房)2010年 佐藤郁哉著『社会調査の考え方 上・下』(東京大学出版会)2015年 佐渡島紗織・吉野亜矢子(2021)『これから研究を書くひとのためのガイドブック[第2版]-ライティングの挑戦 15週間』ひつじ書房</p> <p>2025年度「知の挑戦Ⅰ」の調査報告書(非売品、授業の第1回で配布)</p> <p>*そのほか、各自の研究テーマに関わる重要な先行研究を授業内で適宜提示する。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p> <p>*受講者の理解度や実際の作業の進捗などにより各回の内容や順番が変更となる可能性あり</p>	
時期	テーマと内容
春学期 前半	<p>テーマ:リサーチクエストとリサーチデザインの検討、先行研究の精読や調査対象地に関する事前調査</p> <p>内容:リサーチクエストとリサーチデザインや調査対象地の候補について受講者各自から発表する、重要な先行研究の概要を紹介するとともに自分の研究にどのように使えるかや調査対象としたい地域の基礎情報を受講者各自から発表する、等</p>
春学期 後半	<p>テーマ:調査企画の検討、フィールドワークの準備</p> <p>内容:夏季休講期間中に向けて受講者各自がどのような調査・研究の計画を立てているか発表する、夏季休講期間中のスケジュールを確認する、等</p>
夏季休 講期間	<p>テーマ:フィールドワークの実施、調査記録の作成とデータベース化</p> <p>内容:受講者各自が決めた調査対象地での現地調査を実施する、受講者各自で文字起こし記録や観察記録や写真などをまとめてデータベース化しておく、お礼状を作成し発送する、等</p>
秋学期 前半	<p>テーマ:調査のふりかえりと今後の計画の確認、調査結果のとりまとめと中間報告、フィールドワークの可能性の検討</p> <p>内容:受講者各自で調査から分かったことやそこから言えることを暫定的にまとめる、まとめた内容を中間報告として大学祭で展示することを検討する、等</p>
秋学期 後半	<p>テーマ:分析レポートの執筆、調査協力者への原稿内容の確認、最終報告</p> <p>内容:受講者各自で調査結果をもとに分析レポートの原稿を執筆しその内容を授業内で発表する、調査協力者へ原稿内容の確認を依頼する、最終的な調査結果を受講者各自から発表する、等</p>